

令和6年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

日本語教師【中堅】に対する研修報告

実施機関名	公益社団法人 日本語教育学会
事業名	日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム（略称：JCN研修）
事業実施期間	令和6年4月～令和7年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者61名中、研修修了者56名 （中堅研修コース） 研修受講者9名中、研修修了者5名 （講師育成(研修企画)コース）

研修報告の構成

1. 事業全体の概要
2. 中堅研修プログラム
3. 講師育成（研修企画）プログラム
4. 基盤整備：研修後のフォローアップ体制の構築
5. 受講生からの評価
6. 事業評価
7. 成果と課題



1. 事業全体の概要

1.1 目的

本事業（「日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」）は，本学会が2018-2020年度（開発事業），2021-2023年度（普及事業）に受託した同プログラムの成果を踏まえ，次の5つを目的として実施した。

【目的①】

日本語教師がこれまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り，俯瞰し，それらを理論的・メタ的に位置づける。この活動を通じて，これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し，日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】（以下「中堅日本語教師」）の育成を目指す。（＝【中堅研修プログラム】の実施）

【目的②】

普及事業における2カ年の実績を踏まえ，「中堅日本語教師」を育成する講師のための研修プログラムを見直し，改善する。（＝【講師育成（研修企画）プログラムのデザイン】（その他関連する取り組み）の実施）

【目的③】

上記目的②で改善されたプログラムに基づき，「中堅日本語教師」を育成する研修を企画・運営したり，講師を務めたりすることができる人材（「中堅日本語教師」研修講師）の育成を目指す。（＝【講師育成（研修企画）プログラム】（その他関連する取り組み）の実施）

【目的④】

受講生および修了生による研修成果の発表などの活動を集約し，公開するためのプラットフォームを構築する（＝【プラットフォームの構築】（その他関連する取り組み）の実施）。

【目的⑤】

受講年度を越えて，修了生が研修修了後も自律的，持続的に活動が続けていくためのネットワークを構築するための基盤を整備する（＝【ネットワークの基盤整備】（その他関連する取り組み）の実施）。



1. 事業全体の概要

1.2 取組の内容

事業実施にあたり、次の5つの委員会および事務体制を整えた。そして、2つの研修プログラムを実施するとともに、受講生・修了生のネットワークや成果発表を促進するための基盤整備を行った。

1. 運営委員会：事業全体の方針、体制などを決定する。
2. 中堅研修プログラム委員会：【中堅研修プログラム】の具体的な実施方法を検討するとともに、それぞれのプログラムを実施・運営する。（目的①）
3. 講師育成プログラム委員会：普及事業における3カ年の実績を踏まえ「中堅日本語教師」を育成する講師のための研修プログラムを見直し、改善する（目的②）とともに、【講師育成プログラム】を実施・運営する。（目的③）
4. 基盤整備委員会：受講生および修了生の成果発表の場となるプラットフォームを構築する（目的④）とともに、修了生のためのネットワークを構築するための基盤を整備する（目的⑤）。
5. 事業評価委員会：受講生に対する事前、事後アンケートを行うとともに、外部有識者から評価を受ける。

事務体制としては、公益社団法人日本語教育学会事務局に事業実施統括員を置き、統括を行う。事業実施統括員は文化庁、及び関連諸機関との渉外業務を行うとともに、各委員会の開催・運営、および、2つの研修プログラムの事業経費管理等を行う。また事業実施統括員の下で、各委員会との調整業務を行う事業補佐員を配置する。

1. 事業全体の概要

1.3 実施体制

日本語教育学会事務局
事業実施統括員
事務補佐員

実施体制を下図に示す。（◎委員長，○副委員長）

運営委員会：◎義永 美央子，○中島 祥子，嶋津 百代，犬飼 英男，吉川 達，北出 慶子，金子 史朗，星 摩美
基盤整備委員会：◎中俣尚己，○小坂凜、中島祥子、加藤林太郎、安達万里江

【研修担当】 ※ ●印は本研修を受講し、修了後に委員となった者

班長：
副班長：
チーム：

嶋津 百代
金子 史朗
A 御館 久里恵
B 菊池 涼子●
C 横山 紀子
D 香月 裕介
E 嶋 ちはる/
布尾 勝一郎

1 班

犬飼 英男●
北出 慶子
F 黒崎 誠
G 加藤 林太郎●
H 平山 允子●
I 小坂 凜●
J 時本 美穂●

2 班

吉川 達
星 摩美●
K 間瀬 尹久●
L 永田 良太
M 小河原 義朗
N 今井 武
O 柳田 直美/
ツオイ・エカテリーナ

3 班

中堅研修プログラム委員会：◎嶋津 百代，○犬飼 英男，○吉川 達，上記全講師

講師育成プログラム委員会：◎北出 慶子，○金子 史朗，○星 摩美，嶋津 百代，犬飼 英男，義永 美央子，中島 祥子

事業評価委員会：◎義永 美央子，○中島 祥子，阿部 真由美，石黒 広昭，栗田 加代子，戸田 佐和，野田 尚史



2. 中堅研修プログラム

2.1.1 目的・ねらい・特徴—求められる資質・能力と研修における教育内容の関係—

本研修は次の特徴を持つ。

(1) 研修テーマ

文化審議会国語分科会（2019）の『日本語教育人材の養成・研修の在り方（報告）改訂版』で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」（p.31），および「日本語教師【中堅】研修における教育内容」（p.56）を踏まえ，本研修では「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし，研修生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理，検討する。

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------|---------------|
| (1)日本の在留外国人施策・制度 | (2)関係府省庁による日本語教育施策 | (3)日本語の試験 |
| (4)国内外の多様な日本語教育事情 | (5)学習者の社会参加 | (6)異文化間トレランス |
| (7)言語学習・教育の情意的側面 | (8)日本語教育プログラム及び教育環境デザイン | |
| (9) 目的・対象別日本語教育法 | (10)評価法 | (11)異領域との協働 |
| (12)日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権 | | (13)マネジメント能力 |
| (14)事務・管理能力 | (15)人材育成能力 | (16)ネットワーキング力 |
| (17)その他 | | |

(2) チームで研修活動を行う

本研修では，他者とのつながりと協働を重視する。そのために，研修生は応募時に提出した自らの課題を一人で考えるとともに，課題に基づいていくつかのチームに分かれ，チームとしても研修活動を行う。一人で考え，解決するのではなく，組織や専門分野をこえた様々なリソースを活用し，つながることの重要性とダイナミズムを経験する。



2. 中堅研修プログラム

(3) 各自の課題を自ら設定し、自ら解決する

研修生は、各自の課題や解決方法を誰かにおしえてもらうのではなく、自らの解決にあたる。そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組む。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指す。

(4) 日本語教育学会のリソースを活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有する。

(5) 6期に分けて実施

2024年7月から 2025年1月までの約7ヶ月の研修期間を、6期に区分して実施する。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれに Zoomによるスクーリング（同期型研修）を行う。さらに、研修全体を通して LMSとチャットツールを利用した課題の遂行と意見交換を並行して行う。その他、1月に修了レポートの提出が求められる。

(6) LMSとチャットツールを利用した非同期型研修

全研修期間を通じ、LMSとチャットツールを利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行う（非同期型研修）。チームにはそれぞれ研修担当の講師（アドバイザー）が付き添い、伴走する。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行う。研修担当の講師を一つのリソースとしてどのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験する。具体的には、講義と演習の合間に LMSとチャットツールを利用して次のことを行う。

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| ①各種課題の提出 | ②チームによる進捗状況報告 | ③課題解決方法の検討と決定 |
| ④改善案の検討 | ⑤成果発表会に関する協力・連絡 | ⑥その他、個別のネットワーキング |



2. 中堅研修プログラム

2.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

2.2.1 実施時期・内容・提出物

期	1期	2期	3期	4期	5期	6期
時期	7月	8月	9月	10月	11月	12～1月
内容	オリエンテーション 講義1	講義2 演習1	講義3 演習2	講義4 演習3	講義5 演習4	成果発表会 (演習5)
提出物	①振り返りシート ②自己評価票	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①講義・演習の課題 ②振り返りシート ③自己評価票	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①研修成果のまとめ ②修了レポート ③自己評価票



2. 中堅研修プログラム

2.2.2 各期の内容

各期は原則として【講義】と【演習】の組み合わせで構成。

総単位数は 40単位。【講義】20単位, 【演習】20単位（1単位45分）。

【講義】と【演習】の内容と単位数は、以下の通り。

- 【講義】(4単位): 講義(講義動画/ライブ講義)の視聴(1単位) + 課題の遂行(1単位) + スクーリング(2単位)
- ・ 講義では、動画教材による講義をスクーリング前に各自で視聴（講義動画）、あるいは、同期型研修でのライブ講義に参加する。
 - ・ 講義視聴後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行する。
 - ・ 課題提出後、Zoomによるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行う。
- 【演習】(4単位): 事前課題の遂行(1単位) + スクーリング(2単位) + 事後課題の遂行(1単位)
- ・ スクーリングの前に担当講師が指定する事前課題を遂行する。
 - ・ Zoomによるスクーリングで課題の共有や議論などを行い、自身の研修課題の解決を図る。
 - ・ スクーリングの議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行する。

(ただし、1期は講義1(ライブ講義)の聴講1単位 + スクーリング3単位の計4単位、6期は成果発表会への参加によって4単位となる)



2. 中堅研修プログラム

2.2.3 講義動画の内容および担当講師

	科目	テーマ	担当講師	動画 本数
事前	研修について (1) ~ (3)	①コースガイダンス	嶋津百代	1
		②研究倫理と著作権	義永美央子	1
		③文献検索	北出慶子	1
講義1	日本語教育施策の動向と日本語教師【中堅】に期待されること	日本語教育施策における【中堅】の位置づけ	石澤徹	ライブ 講義
講義2	日本語教育と「熟達」 (1) ~ (3)	日本語教師と「熟達」	横溝紳一郎	3
講義3	「実践を記述する」ということ (1) ~ (3)	①「実践」を観察する	石黒広昭	1
		②「実践」を記述する	石黒広昭	1
		③「実践」を評価する	石黒広昭	1
講義4	課題解決のアプローチ (1) ~ (3)	問題を解決する	石黒広昭	3
講義5	「実践」を振り返る／異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	横溝紳一郎	3



2. 中堅研修プログラム

2.2.4 同期型研修の担当講師

回数	開講日時	時間	科目名	講師	講師補助者
1	7月27日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング 1	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ
2	8月24日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング 2	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ
3	9月21日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング 3	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ
4	10月19日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング 4	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ
5	11月23日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング 5	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ
6	12月21日(土) 13:00~16:30	4	成果発表会	1班：嶋津百代 2班：犬飼英男 3班：吉川達	1班：金子史朗, 御館久里恵, 菊池涼子, 横山紀子, 香月裕介, 嶋ちはる, 布尾勝一郎 2班：北出慶子, 黒崎誠, 加藤林太郎, 平山允子, 小坂凜, 時本美穂 3班：星摩美, 間瀬尹久, 永田良太, 小河原義朗, 今井武, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ



2. 中堅研修プログラム

2.2.5 募集・選考・受講者・修了者の情報

募集：2024年5月10日～5月31日（火）23:59（JST）

日本語教育学会HPの他，日本語教育関連の学会，研究会MLなどで周知

選考：応募資格および提出された事前課題によって選考

応募資格：中堅日本語教師として十分な経験を有する者（目安として3年以上の日本語教育歴がある者）

事前課題：

この研修で取り組みたい，ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について，以下の1）～5）の質問に答える形でPDFファイルを作成し，上記のURLからアップロードしてください（申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります）。ファイル名は「JCN中堅事前課題_氏名」としてください（例：「JCN中堅事前課題_学会太郎」）。研修参加が認められた場合，ここに書かれた課題を参考にチーム編成を行います。また，研修中はここに書かれた課題の検討・解決に取り組むことが求められます。

- 1) 本研修で取り組みたい課題のタイトルを具体的に書いてください。
- 2) 取り組みたい課題は，あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400字程度で説明してください。
- 3) その課題を解決するために，これまでどのようなことに取り組みましたか。200字程度で説明してください。
- 4) その課題を解決するために，何が必要だと考えますか。200字程度で説明してください。
- 5) その課題を解決するために，この研修に期待することは何ですか。200字程度で説明してください。

応募者：65名（中堅応募61名，講師育成との同時応募4名）

受講者：61名（講師育成との同時応募4名から中堅へ2名。事前辞退者2名）

（国内55名，海外6名。受講開始時：20代4名，30代17名，40代12名，50代18名，60代7名，70代3名）

修了者：56名（受講生61名のうち，修了できなかった者5名）



2. 中堅研修プログラム

2.2.6 修了要件と評価方法

修了要件：同期型研修と成果発表会への出席率80%以上，および，課題提出率80%以上を満たすことを前提に，60%以上の課題達成率を修了の要件とする。

※「振り返りシート」（個人）「研修成果のまとめ」（チーム）「修了レポート」（個人）を，ループリックによって評価する。下記の項目は「終了レポート」の観点で，これらについてループリックを作成し，評価。

観点	項目	説明
課題解決力	テーマ・問いの明確さ	それぞれの現場や実践から見て適切なテーマ・問いが設定されているか
	内容や方法の妥当性	問いに対して十分な検討がなされ，課題解決に適切な方法が選択されているか
	結果・結論の明確さ	課題に関する深い考察に基づき，明確な主張や結論が示されているか
	研修内容と自分の課題の関連付けの明確さ	研修で扱った内容や班・チームでの議論と自らの課題がどのように関連するかが明確に示されているか
日本語教師に必要な専門知識	先行研究・資料	課題に応じた必要な資料が適切に引用されているか
	知識や情報	自らの実践や課題解決に関する情報を適切に記述しているか
	文章の構成・読みやすさ	全体の論理構成が明確で，章（節）間，段落間，段落内の情報や主張が整理されているか
	読みやすさ・書式の適切さ	書式など（フォーマット，分量，参考文献リストなど）が整い，統一されているか



2. 中堅研修プログラム

2.2.7 研修の様子



日本語教育学会の
人材、知財、ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム
(略称：JCN研修)
【中堅研修コース】

日本語教育施策の動向と
日本語教師【中堅】に期待されること

公益社団法人日本語教育学会受託
令和6年度文部科学省委託 日本語教師【中堅】研修
(令和6年7月27日)





2. 中堅研修プログラム

成果発表会：発表資料



3. 講師育成（研修企画）プログラム

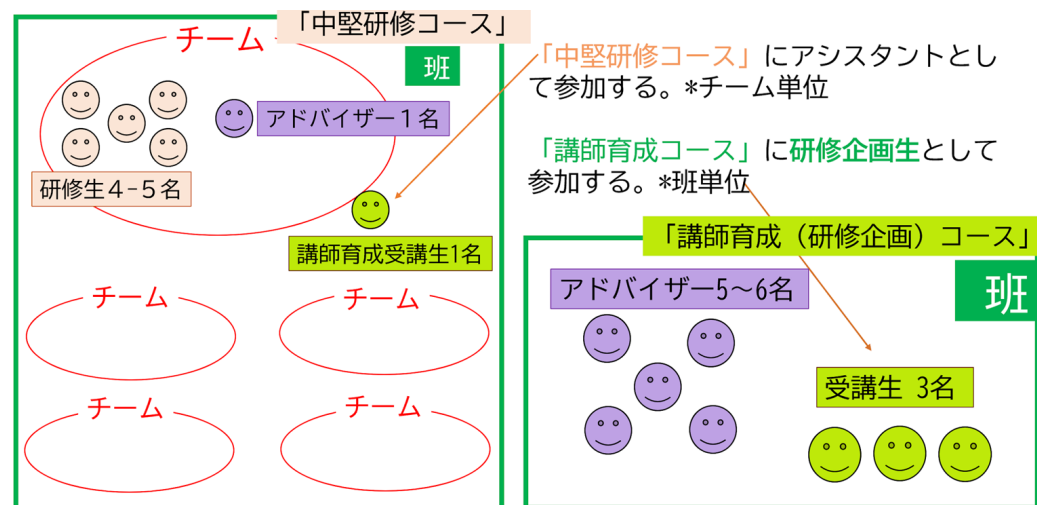
3.1 目的と特徴

【講師育成コースの目的】

- ・平成31年報告で示された「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供する。それによって、
「中堅日本語教師」を育成する研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材を育成する。

【講師育成コースの特徴】

- ・「中堅研修コース」のチームの一つにアシスタントとして参加し、観察することで中堅日本語教師の学びや課題、問題解決の方法を考え、そこからの気づきを踏まえ、中堅向けの研修企画を立案する。
- ・各自研修企画については、班のアドバイザーや他の受講者と共に「研修企画案検討会」で意見交換をし、中堅日本語教師に求められる資質・能力やその育成方法を検討する。



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

3.2.1 研修の構成

原則として【講義】と【演習】の組み合わせで構成。総単位数は 35単位（1 単位 45 分）。

【講義】（5単位）と【演習】（30単位）の内容は以下の通り。

【講義】中堅研修コースと共通の動画を視聴（5単位）

（本資料9ページ参照，コースガイダンスのみ「講師育成コース」専用のものを視聴）

【演習】（30単位）の内訳は以下の通り。

1) オリエンテーション（2単位）と事前セッション（3単位）

鈴木克明氏（武蔵野大学）による「インストラクショナルデザインをもとにした研修設計」実施）

2) 中堅研修に係わるスクーリング/成果発表会（計17単位）

中堅研修コースへの参加（5回×2単位），振り返りの事後課題（1単位），

中堅研修コースの成果発表会への参加（2単位）

3) 中堅研修企画案検討会（3回×1単位），研修企画案発表会（4単位），振り返り（1単位）

3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.2 実施時期・内容・提出物

- 「講師育成コース」独自のオンライン（同期型）研修として、オリエンテーション、事前セッション、中堅研修案検討会を3回、振り返りセッション、研修企画案発表会を実施。
- 研修前半に、鈴木克明氏（武蔵野大学）による「インストラクショナルデザインをもとにした研修設計」枠シヨップを実施、石澤徹氏（文部科学省）による「日本語教育施策の動向と日本語教師【中堅】に期待されること」のライブ講義に参加。
- 同期型研修終了後には「振り返りシート」を提出し、学びの確認と振り返りを行う。また、開始時・中間時・終了時に自己評価を実施し、学びの過程を可視化する。研修終了時には自らの研修企画案やJCN研修での学びをまとめた修了レポートを作成。
- 研修期間を通じて、LINEWORKSを用いた講師育成コース参加者や班のアドバイザーとの意見交換（非同期型研修）を実施。

時期	7月	7月後半	8月	9月	10月	11月	12月	1月
内容	オリエンテーションWS 事前セッション	講義演習1参加	講義演習2参加 中堅研修企画案検討会1	講義演習3参加	講義演習4参加 中堅研修企画案検討会2	講義演習5参加	成果発表会参加 中堅研修企画案検討会3	研修企画案発表会 振り返りセッション
提出物	振り返りシート① 自己評価票		振り返りシート②	振り返りシート③と④	振り返りシート⑤ 自己評価票		振り返りシート⑥	自己評価票 修了レポート

「インストラクショナルデザインをもとにした研修設計」ワークショップの実施

「日本語教育施策の動向と日本語教師【中堅】に期待されること」のライブ講義参加



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.3 同期型研修の担当体制

回数	開講日時	時間	科目名	副班長	班長、アドバイザー
1	7月6日（土） 13:00～17:00	5	オリエンテーション・事前セッション	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ
2	7月27日（土） 13:00～16:30	4	【中堅研修コース】に係る事前セッション・ライブ講義	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ
3	8月24日（土） 16:45～17:30	1	中堅研修企画案検討会①	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ
5	10月19日（土） 16:45～17:30	1	中堅研修企画案検討会②	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ
7	12月21日（土） 16:45～17:30	1	中堅研修企画案検討会③	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ
8	1月25日（土） 13:00～17:30	5	中堅研修企画案発表会・中堅研修の振り返り	1班：金子史朗 2班：北出慶子 3班：星摩美	1班：嶋津百代，御館久里恵，菊池領子，横山紀子，香月祐介，嶋ちはる，布尾勝一郎 2班：犬飼英男，黒崎誠，加藤林太郎，平山允子，小坂凜，時本美穂 3班：吉川達，間瀬尹久，永田良太，小河原義郎，今井武，柳田直美，ツオイ・エカテリーナ



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.5 受講者・修了者の情報

【受講者】

- 講師育成コースへの応募者14名（講師育成10名，中堅研修コースと同時応募4名）
- 受講者9名（中堅との同時応募4名から中堅研修コースへ2名移動， 応募資格に満たず不合格1名，事前辞退者1名）受講者の属性は以下の通り。

主な活動領域	留学生（日本語学校，専門学校，フリーランス） 6 年少者（中学校教諭） 1 難民・避難民・就労者（フリーランス） 1 海外（大学教員等） 1
居住地	日本国内：8， 海外：1

【修了者】

- 講師育成コースの修了者5名。辞退者2名（本務業務の都合，体調不良による）。不合格者2名（課題達成率が基準に満たなかったため）。



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.4 募集と選考

- ・ 募集：2024年5月10日～5月31日（金）23:59(JST)

日本語教育学会HPの他，日本語教育関係の学会，研究会MLなどで周知

- ・ 選考：応募資格，および，提出された事前課題によって選考

- ・ 応募資格：文化審議会国語分科会（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版』，p.31

「表8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての専門性と経験を有する者。

- ・ 現在,または将来的に中堅日本語教師研修の講師等を務める可能性があり,日本語教育に貢献する意欲がある者。
- ・ 過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。

- ・ 事前課題：以下の3点について，合わせて1,000字程度で考えを述べる。

- 1) 日本語教師【中堅】に対して，どのような研修を企画したいか
- 2) 1) の企画を考えるに至った自身の経験や日本語教育の現状を説明
- 3) 1) の企画を実際に運営・実施するにあたって，この研修で何を学びたいか



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.6 修了要件と評価方法

- ・ 修了要件：出席率と課題提出率いずれも80%以上, 課題達成率60%以上
- ・ 修了レポート（研修企画案）の評価の観点：下記の観点についてループリック作成

観点	項目	説明
研修企画力	目的の明確さ	想定する現場の現状を反映させ、研修の目的が設定されているか
	内容や方法の妥当性	研修の目的に対して十分な検討がされ、目的を達成するための適切な方法が選定されているか
	評価・改善方法の適切さ	研修の目的に応じた適切な評価方法がとられているか また、研修の改善方法についての検討がされているか
専門知識	社会的背景・現状の把握	研修立案にあたり、当該研修の対象者らがもつ社会的背景および現状について十分に把握できているか
	ステークホルダーの現状・実態の認識	当該研修の対象者が関わる組織や関係者らの現状や実情を認識できているか
	知識・情報の理解の適切さ	研修立案にあたり、諸々の知識、情報を正しく理解し、踏まえられているか
	先行研究・資料との関連付けの明確さ	先行研究や各種資料が研修企画の立案にどのように関連しているかが明示されているか
JCN研修との関連性	JCN研修と研修企画の関連付けの明確さ	本研修で得た知識、知見、経験等が研修企画の立案にどのように関連しているかが明示されているか
	JCN研修と専門知識の関連付けの明確さ	本研修のどんな活動からどのような専門知識を得られたかが明示されているか



3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.7 研修の様子

日本語教育学会の
人材，知財，ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム
(略称：JCN 研修)
【講師育成（研修企画）コース】

2024年7月6日（土）
全体オリエンテーション



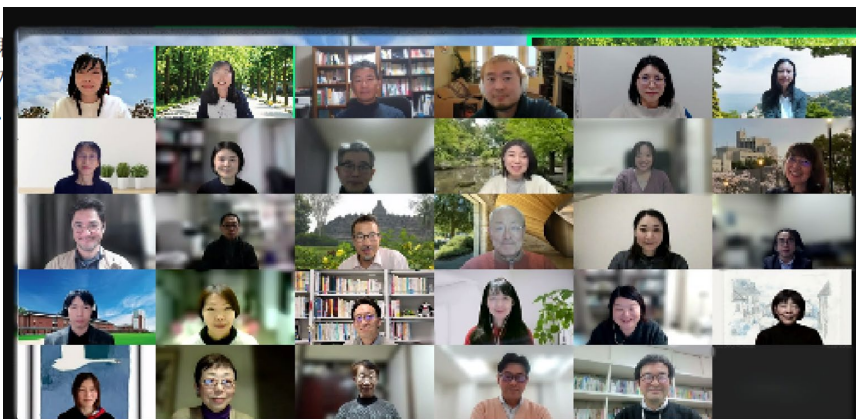
JCN 研修講師育成（研修企画）コース事前ワークショップ資料 熊本大学名誉教授 鈴木克明 1 / 21

■育成研修の対象者

中堅日本語教師対象の研修企画立案者

■事前ワークショップ「インストラクショナルデザインをもとにした研修設計」の学習目標

1. パフォーマンス分析の枠組み、攻撃的インタビュー手法、中堅日本語教師に求められる資質・能力を適切に用いて、中堅研修受講生とその所属組織のニーズ・課題を把握できる（ニーズ分析の基礎）
2. 把握されたニーズ・課題について、研修と研修以外の方法を含めて適切な解決策を提案できる（研修で解決すべき課題を選ぶ基礎）
3. 研修が解決策として適切な提案できる（研修方法選択の基礎）
4. 中堅研修を企画するときに、





3. 講師育成（研修企画）プログラム

3.2.8 参加者が研修の研修企画案発表会時に提出した研修企画案（題目一覧）

研修企画案（題目一覧）

地域日本語教育の活性化 —多文化共生は達成できない!? しかし、目指す価値はある—

長期キャリアとしての日本語教師—ベテラン教師と考える、欧州で働き続けるには—

来し方をふりかえり、今と向かい合いながら、先を見とおす
—日本語教育者むけオートエスノグラフィー記述の実践研究プログラム—

教師個人と組織のウェルビーイングを高める職場内研修

シラバスデザインの策定およびPDCAの実践 —「日本語教育の参照枠」を基盤として—

日本語教師のキャリア・デザイン—キャリアの可視化—

共に学び、築いてゆく子どもネットワーク—散在地域でのより良い支援を目指して—



4. 基盤整備：研修後のフォローアップ体制の構築

(1) JCNNextの運用開始

⇒ 【目的⑤】 修了生が研修修了後も自律的持続的に活動をしていくためのネットワークの構築

- ・ 研修修了生のネットワークとしてSlack（無料版）のワークスペースを利用しJCNNext（「JCN研修の次のステップへ」の意味を込めた）の運用を開始した。
- ・ 2024年3月に研修修了生（過去の修了生も含む）全員にSlackへの参加を案内したところ、現在90名が参加している。
- ・ 四つのチャンネルを設定している（「JCNNextの部屋」「企画・仲間集めの部屋」「雑談の部屋」「情報共有の部屋」）
- ・ 修了生の自主的なネットワークとするが、今年度は基盤整備委員3名が「ネットワーク担当者」として参加し、発信の見守りを行った。
- ・ 2025年度修了生が確定した場合には、事務局より修了証の発行と共にJCNNextへの案内を行う予定。
- ・ 次年度以降は、基盤整備委員会は組織せず、委員長・副委員長が「ネットワーク担当者」を兼ねる予定。



4. 基盤整備：研修後のフォローアップ体制の構築

(2) JCN研修ホームページの作成・公開

⇒【目的④】受講生および修了生による研修成果の発表などの活動を集約し、公開するためのプラットフォームの構築

- ・2025年3月、日本語教育学会のwebページ内に、JCN研修ホームページを公開予定。

- ・ホームページは大きく三つのコンテンツに分かれている。

- ①「JCN研修とは」...JCN研修の概要を説明し、過去のテーマや教材の一部なども公開。

- ②「人材・知財・ネットワーク（修了生一覧）」...修了生一覧として、「氏名」「活動エリア」「webページなどの情報」「各自の研修テーマ」を掲載。修了生の氏名、活動エリア、webページなどの情報、各自の研修テーマを掲載（ただし、氏名を含めて修了生から掲載許可が得られた項目のみ）。

- ③「修了生の声・成果」...修了生の受講動機、受講の感想、研修で得られた成果を掲載。また、研修修了後の成果について、研修修了生による学会発表や論文を掲載（事務局に報告があったもののみ）。



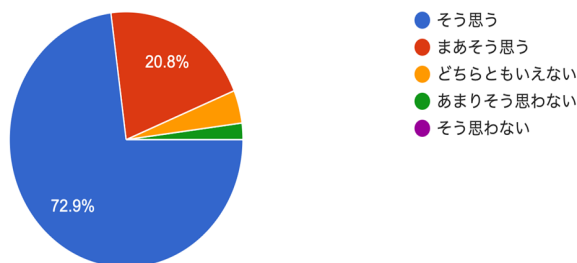
5. 受講生からの評価

5.1 中堅研修プログラム（1）

終了後のアンケート（n=48）では、回答者の93.7%が「参加してよかった」（「そう思う」「まあまあそう思う」）と回答しており、肯定的評価が高かった。また、「非同期型研修」における講義動画の視聴（講義の課題を含む）やZoomによる「同期型研修」についても9割近くの受講生から肯定的な評価を得られた。

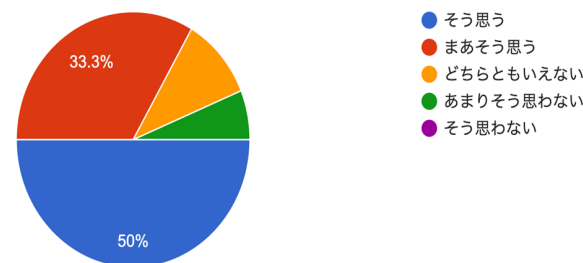
1 全体として、この研修に参加してよかったと思いますか。

48 件の回答



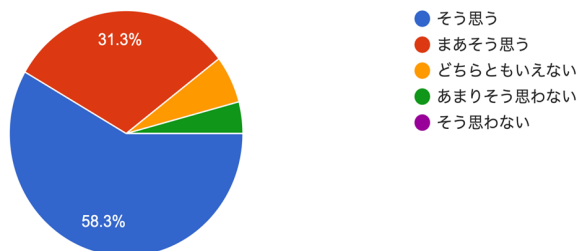
2 講義動画の視聴（講義の課題を含む）による「...修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。」

48 件の回答



3 Zoomによる「同期型研修」は、上記研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

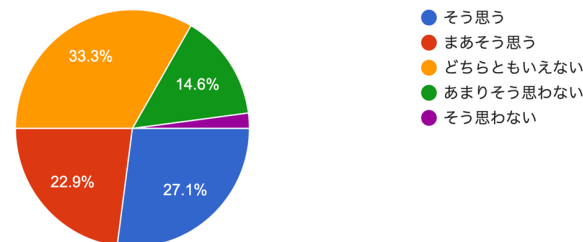
48 件の回答



4 本研修では「非同期型研修」の際に、LINE

WROKSを利用しましたが、上記研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

48 件の回答





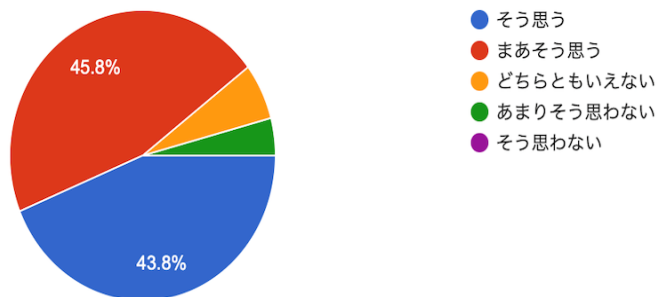
5. 受講生からの評価

5.1 中堅研修プログラム（2）

「課題持ち寄り型研修」についても、「中堅」としての資質・能力の開発において効果的だと考える受講生が9割近くおり、肯定的評価が高い。また、本研修を他の中堅教師に勧めたいと考える受講生も8割を超えている。

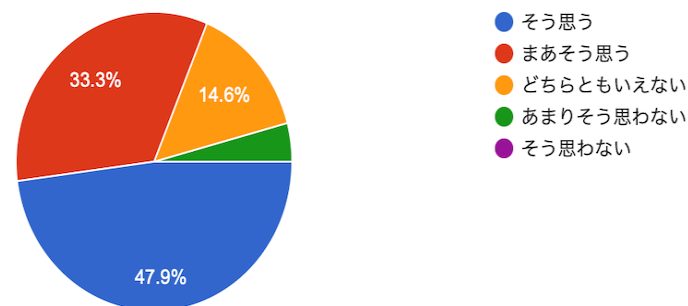
5. この研修はいわゆる「座学」ではなく、研修参加者が自分の課題を持ち寄って解決していく形で行われます。この形態は「中堅」としての資質・能力の開発において効果的だと思いますか。

48 件の回答



6. もし同じ研修の機会があったら、他の中堅教師に勧めたいですか。

48 件の回答



5. 受講生からの評価

5.1 中堅研修プログラム（3）

「JCN研修に対する感想や質問、気づいた点など」の自由記述欄

- 大変でしたが・・・
 - ✓ 毎回のスクーリングや振り返り、課題を提出した後は頭が疲れてしまいましたが、普段の業務では論理的に考える時間を持つことがあまりないので、大変でしたが参加してよかったと思います。
 - ✓ 日常業務と並行しての研修は、想像以上に大変でしたが、チームメンバーの皆さんの奮闘を拝見したり、アドバイザーの方からの励ましを頂いたりしながら、修了することができました。この研修に参加して良かったと心から思います。
- 残念な点・・・
 - ✓ 話し合いでは、自由な雰囲気ですストレスなく楽しみながら参加することができました。また、適切なアドバイス、コメントを頂き多くの学びを得ることができました。チームの皆様にも恵まれ、毎回参加を楽しみにしていました。適度な距離感と学び量が、ちょうど良かったです。他チームの方との交流ができなかったのは少し残念ですが、限られた時間の中で有意義な学びの時間を持つことができました。
 - ✓ 新しい知見、人とのつながり、学習ツール、特にパドレットの使い方など、得るものがとても多かったです。日々流れていた仕事について振り返ってみることで、課題の原因に関する考え方も変わり、新たな試みにつながりました。研修に参加して良かったと思っています。できれば放課後のようなチームを越えた交流の機会がもう少しあればと思います。放課後に参加した際、もっと話を聞きたい、意見交換したいと思う方がいらしたが、連絡のしようもなく、残念に思っています。
- ご意見・ご提案・・・
 - ✓ Padletの書き込みの要領を最後まで得なかった感じがする。
 - ✓ JCN研修では、最後の同期型の研修が終わり、レポートを書いたあと、具体的にどのようなスケジュールで修了が認定されるのか、わかりませんでした。（現在もあまりよくわかっておりません。）出したら出しっぱなしで、修了されれば、つながるMLに入れるなどのアナウンスはあったものの、あとはLINE WORKSの終了のお知らせなどで、やりっぱなしというか、どうしたらいいのかなど少し不安に感じております。
 - ✓ もう少し今までのやり取りや人の提出物などが見られる期間が長い方がいい（修了後1年くらいなど）。修了後も参加者同士が繋がれるツールがあるといい。
 - ✓ 大変でしたが、成長を実感しています。また申し込んでしまいそうです。
 - ✓ 中堅の次のプログラムの企画/提供をお願いします。



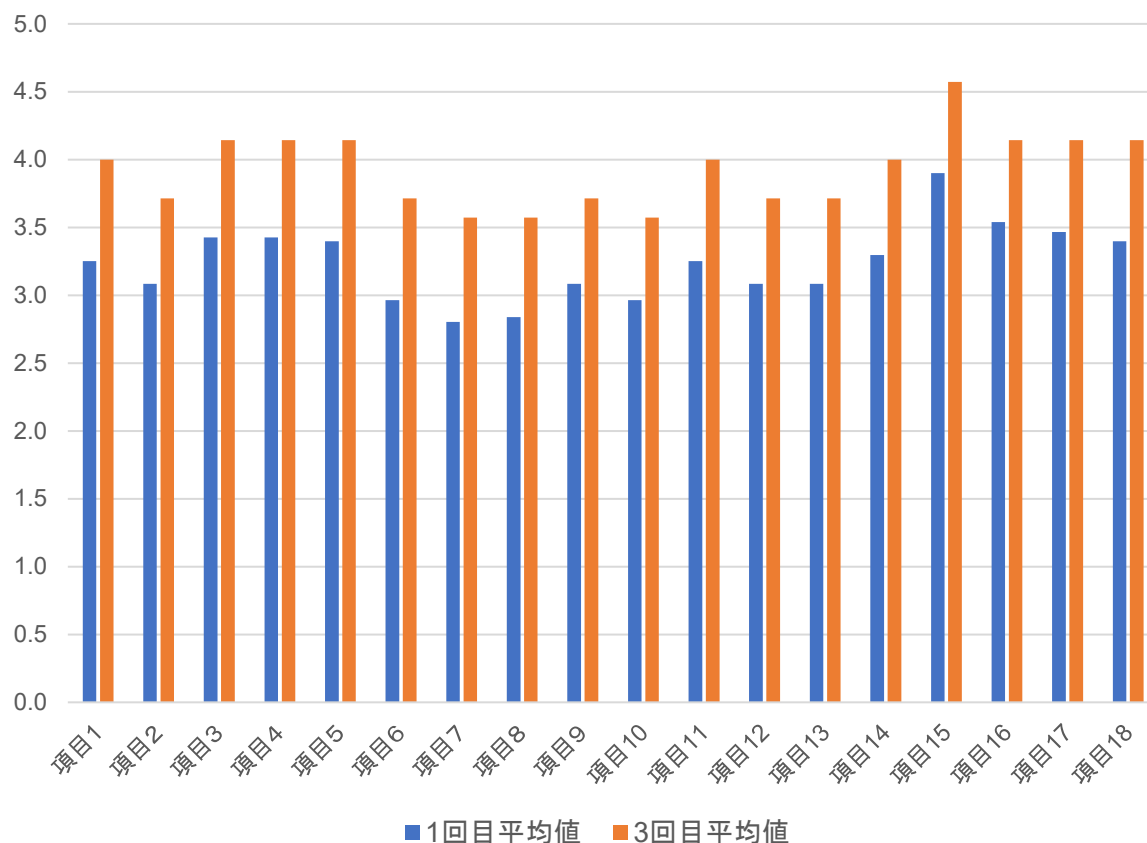
5. 受講生からの評価

5.2 講師育成（研修企画）プログラム（1）

「日本語教師に求められる資質・能力」（日本語教育コーディネータ）の項目についての自己評価の変化（1回目開始時と3回目終了時の比較）（n=7）5段階尺度

- ・全ての項目において開始時よりも終了時の方が自己評価の数値が高い。

資質・能力に関する自己評価



1. 日本国内の外国人受け入れの最新動向の把握
2. 日本語教育機関の設置・運営に関する知識
3. 日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善のための知識
4. 人材育成、組織マネジメント、危機管理に関する基本的な知識
5. 日本語教育業界の動向の把握
6. 関係機関とのネットワーク、調整・交渉に関する知識
7. 多様な機関と連携・協力し、学習者の学びや社会参加を促進するための活動のデザインを行う知識
8. 日本語教育プログラムを運営・管理する能力
9. 組織マネジメント能力、危機管理能力、リーダーシップ
10. 現状分析、課題把握、改善計画策定
11. 外国人施策、教育行政や他の教育機関の動向等に関する情報を収集し、現場に生かす
12. 事務処理能力、調整・交渉能力、ネットワーク構築力
13. 多様な機関と連携・協力し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動をデザインする力
14. 日本語教育プログラムに関わる日本語教師（初任）等に対する研修を企画できる。
15. 日本語教育専門家としての自覚と情熱、客観的な振り返り、常に学び続けようとする態度
16. 研修機会の提供および人材育成に努める態度
17. 組織内での立場や役割の認識と前向きな態度
18. 多様な教育機会の提供に努める態度

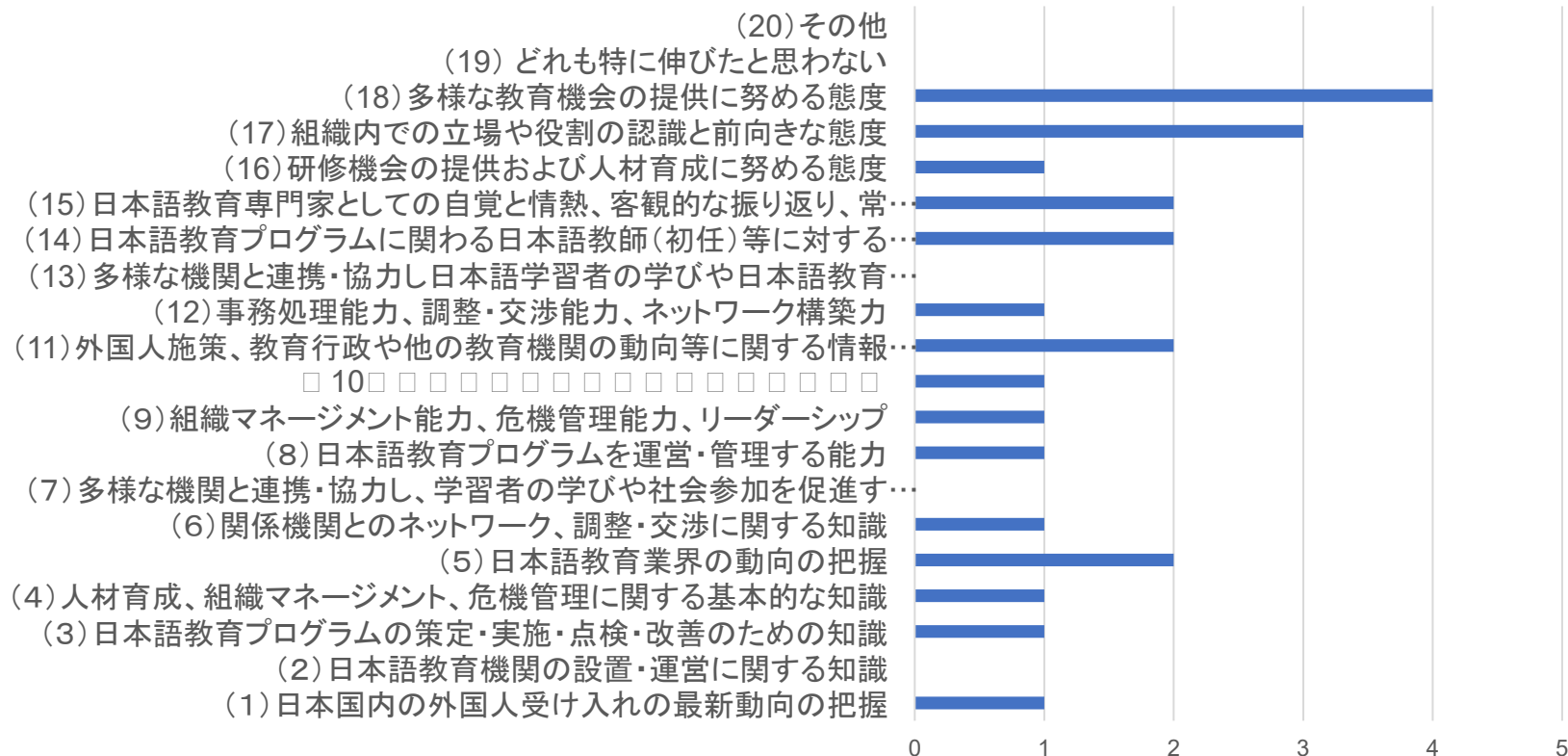


5. 受講生からの評価

5.2. 講師育成（研修企画）プログラム（2）

終了時の自己評価において「研修を通して伸びたと思う項目」の結果を以下に示す。（n=7, 5段階）
 受講生の背景や興味・関心も様々であり、多様な項目が選ばれている。特に選ばれたのは「18.多様な教育機会の提供に努める態度」や「17.組織内での立場や役割の認識と前向きな態度」。

「研修を通して伸びたと思う」項目（複数回答可）





5. 受講生からの評価

5.2. 講師育成（研修企画）プログラム（3） 「最終アンケート」 回答結果（n=5）

（1）全体として、この研修に参加してよかったと思いますか。

5 件の回答

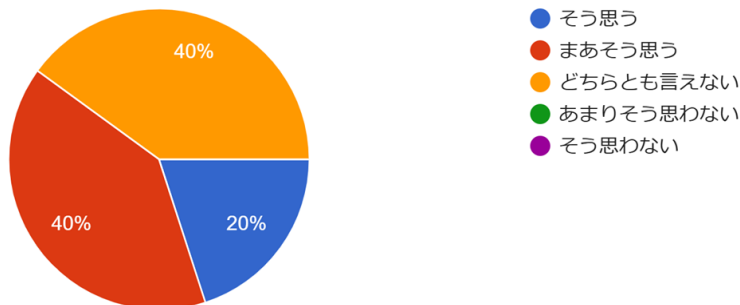


自由記述で見られた改善点に関する内容（概要）：

- 非同期型チャットツール（LINEWORKS）の活用方法については受講者間の議論が活発になるような促しが必要。
- アドバイザーとのやり取りの方法がわかりにくく、相談しにくかった。
- アシスタントとして参加した中堅チームの受講生と直接やりとりがしたかった。

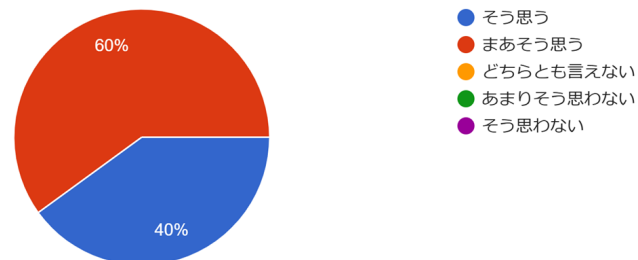
（5）この研修は、いわゆる「座学」ではなく、中...態は研修を企画する上で有益だと思いますか。

5 件の回答



（10）本研修の修了要件は適切だと思いますか。

5 件の回答





5. 受講生からの評価

今期のプログラムが示唆した課題、次年度の申請にあたって検討すべき課題

- 評価について

- ✓ 昨年度の評価方法を見直し、欠席率・課題提出率・課題達成率の重なりがないようにした。
- ✓ 一方で、課題達成率が満たず、修了できなかった受講生がいる。
- ✓ これまで受講生にルーブリックを公開していなかった。講師（アドバイザー）から公開希望の意見がある。

- 非同期型研修の評価について（+ 講義・演習の課題）

- ✓ 講義・演習の課題に対する評価を点数化するか。
- ✓ 現状の評価は提出物についてのみ。そのため、プロセスを見ているアドバイザーの思いが反映されていない。非同期でのやりとりや、講義や演習の課題の内容まで、どのように評価するか。

- ITサポートについて

- ✓ 60代、70代の方からの不安の声



6. 事業評価

事業評価については、1.2で示した外部有識者5名を含む事業評価委員会を組織し、2回（8月及び3月）開催した。

委員長 義永 美央子

副委員長 中島 祥子

委員（外部有識者，五十音順）

阿部真由美（早稲田大学，教育学）

石黒 広昭（立教大学，教育学）

栗田 佳代子（東京大学，高等教育）

戸田 佐和（公益社団法人国際日本語普及協会，日本語教育）

野田 尚史（日本大学，日本語教育）



6. 事業評価

第2回事業評価委員会（2025年3月10日開催）における外部有識者からのコメント、質問○、および回答●

【研修全般について】

○JCN研修のやり方が、そこに参加する研修生のモデルになっていることをあらためて感じた。JCN研修のプログラムが教材になっていることを意識することが必要である。

○とても丁寧にプログラムを作成されていると感じている。評価に関しても到達しない方を落とすことも重要な点である。基準を設けて到達に満たないことを設定していることは、非常に大事なことである。

○参加者の確保に関しては、現在、CourseraやJM00Cがプラットフォームとして出てきている。インタラクティブティーチングでいえば、オンデマンドで修了する人と、別に対面でしか学べないことを学ぶリアルセッションがある。インプット、知識を学ぶ部分はオンデマンドに任せ、人的資源・コストがかかる対面の部分はまた時期をみて再開というふうに、レイヤーを分ける考え方があるのではないか。

○プログラムとして作られたものが、アーカイブとしてどこかで閲覧できるように可視化された状態で残すことを模索することも重要ではないかと感じた。

○成果発表会の際にも話したが、日本語教育の環境、特に授業に関しては非常に変わってきている。これまでの授業を振り返るのによい時期で、いかに言語化していくかが重要である。

○学習者の多様性により、教師が多くの課題を抱えている。多くの課題に講師（委員）が対応しているのも本プログラムの特徴である。日本語教育学会のプログラムでなければ実現できないものである。また日本語教育にとっても大きな貢献をされているので、次年度も継続して申請されることは嬉しいし、ぜひ継続していただきたい。

○次年度の募集については、文科省から募集定員100名の要請がある一方で、予算の限度額が150万円減額されている点について、もの申したい気持ちがある。講師（委員）の力・エネルギーに頼っているところが大きいので、省力化をどうはかるかも議論の中心になると思う。

○成果発表会を見せていただいて、今年度もうまくいったと思う。そうそうたるメンバーが揃っているのでもうまくいくのではないかと、当然と言えば当然だが、みなさんお忙しい中よくやっていると思う。

○最初のころから本研修はうまくできていたと思うが、毎年度細かな修正を繰り返してきたこともこの研修がうまくいっている原因・理由なのではないか。

○受講生の年齢が高くなったということがあったが、60代、70代の方のテーマは共通性があったか。それともみなさんそれぞれ異なっていたのか。

●70代の方のテーマは、多読、漢字、在住外国人の支援などだった。



6. 事業評価

第2回事業評価委員会（2025年3月10日開催）における外部有識者からのコメント、質問〇、および回答●

【講師育成（研修企画）プログラムについて】

〇講師育成コースは、中堅の方たちにとっても、自分たちはこれが最後ではなく、その先があるんだというイメージを持つことができる、そういうコースだった。自分たちは入り口にいて、次があるのだということで意味があった。次年度はさまざまな事情で講師育成コースは募集しないとのことだが、講師育成がないことをどうフォローするのか、その場がないことをどうしたらいいのか。そこは慎重に検討したほうがいい。せっかく中堅研修で育った人材を基盤整備のネットワークを作るところまでできたが、もう少し力を維持していくための戦略が必要ではないか。

〇講師育成コースについていえば、次年度は募集をやめるということだが、「中断」なのか、「中止」なのか。文言の使い方が重要だと思う。ネットワーク整備でからめると、「中止」ではなく、やわらかなことばで置き換えたほうがいいのではないか。「中断」がいいのではないか。

〇講師育成コースはこれまでのところ例年10人以下ぐらいの人数しか集まっていない。数年おきに実施することを考えることも必要なのではないか。中堅研修終了後、連続して講師育成コースを受講する方も多かったが、中堅研修終了後、現場を数年やってみて、あらためて何だったのだろうと語る場としてあるということを見ると、間隔があいてもいいと思う。毎年実施しないが、数年経ったら実施する可能性もあるという含みを持たせた形で、次年度は実施しないということにしておく。その間に、運営委員のほうで、どうやってこのネットワークを維持発展させるかという議論をすすめて、時間を確保するということがあっていいのではないかと思う。

〇講師育成コースがなくなる件は、他の委員と同じく非常に残念だと思う。本研修の特徴はやはり講師育成コースにある。日本語教育ではあまりこのような研修はないので、また復活させていただきたい。どうしたら可能かといろいろと検討なさっていると思うが、またその話も聞かせていただきたい。

〇この先の研修（中堅の次の研修）が何らかの形で実現できればよいし、ぜひ検討していただきたい。

〇可能性としては受益者負担と言う形で講師育成コースを継続できないか。講師育成の人が育っていき、次の世代でその人たちが中心となっていくというサイクルができるのがよい点である。学会としてそのサイクルを何らかの形で作っていったらいいのではないか。検討していることがあればお話を聞かせていただきたい。

●現状の研修を補助なしに実施しようと思うと、約70万円を受益者負担で確保しないといけない。

〇そうすると補助がないと受講料を上げるしかないか。それでもいいという方はいるのか、感触はどうか。

●日本語教育学会の場合、さまざまな研修を実施しているが、1回500円や会員は無料など、低料金がデフォルトになっている。フリーランスや非常勤の先生方は、自己研鑽にかけられるお金に限度があり、勤務先から補助が出ている場合もそれほど多くなく、難しい。



6. 事業評価

第2回事業評価委員会（2025年3月10日開催）における外部有識者からのコメント、質問○、および回答●

【評価・修了判定について】

○修了できずに途中でやめてしまった方や、達成率が満たずに修了できなかった方は、再度受講できるのか。

●受講は可能。昨年度修了できなかった方が今年度再度受講し、修了している。

○制度上可能かどうかわからないが、受講生の感想にも再度の受講希望や、次はないのかというコメントがある。現場で一つの課題を解決してもまた新たな課題が生じる。1回のみならず、2, 3年経ってから希望があれば受講してもらうような仕組みが可能かどうか。オープンバッジの件もあり、同じ人が複数回受講するというのは難しいかもしれないが、受講者増という点では、同じ人が複数回受講することも可能ではないか。

○評価の問題は難しい問題である。とても丁寧に評価をされてきたと思う。学習者に対する評価には三つの視点がある。

①評価を通してもっと学びたいという気持ちを喚起させるようなインセンティブな評価、②どのような知識や技能を身につけたのかを問うアセスメントとしての評価、③あなたのやっていることはとても意味があり、価値があると

evaluateする評価の三つである。③は講師育成や中堅のベテランにとっては意味のある評価である。現在は②の評価に重点がおかれているのではないかと。まず入り口は、①のインセンティブとしての評価を強く出し、その後、価値づける意味で③の評価に意味を持つようにしていくことが必要ではないか。三つの評価をうまく組み合わせる形で現在の新たな課題に対して対応すると同時に、これまで育てた人材、あるいはネットワークというものをどのように発展させていくかを検討するとよいのではないかと。

○LINE WORKS（以下LWとする）はどのような目的でやり取りをしているのかを聞きたい。

●非同期型研修の趣旨・目標は、スクーリングのディスカッションの時間が限られているので、それを補うためにLWを利用している。他の受講生からの意見を持ち帰り、自分のペースで考えながら、LW上で他の人の意見を聞いてさらに深めてもらう。また、振り返りシートや演習の課題などをLMS上で共有しているので、それを見た上でのLW上での意見交換を期待している。やり取りの実態はチームによっても異なり、アドバイザーの働きかけも影響しており、なかなか一般化しにくい。

○LWのやり取りを評価対象にするかどうかは、目的と直結している。意見交換を課題の一部ということであれば評価の対象にする。一方で自由なやり取りの場ということであれば、評価対象にしてしまうと、本来はコミュニケーションのツールであったものが、デメリットが大きくなってしまふ。目的にあわせて運用する必要がある。



6. 事業評価

第2回事業評価委員会（2025年3月10日開催）における外部有識者からのコメント、質問○、および回答●

【評価・修了判定について】

○ルーブリックの公開については、想像以上に難しいので、初回はクローズドにしてしまうことも一つの戦略である。ルーブリックは本来、形成的な評価なので、評価が安定してきたら、学習者にも指針を与えるという意味では、公開をするほうが課題におけるガイドにもなりうるので好ましいと思う。

○ルーブリックを公開しない場合に、修了しない人からの問い合わせがあるのではないかと思う。公開に問題がなければ、受講生にとっては目標が明確になり、自己評価という面からもわかりやすいので個人的には公開してもいいのではないか。

○ただ一方では昨今でいうところの生成AIの問題がある。ルーブリックを公開してしまうことで、生成AIで課題を提出してしまうことも懸念される。いちごっこの始まりでもある。公開しなくてもそうなるが、そのあたりを考慮しながら課題を設定する必要がある。本来このプログラムで身につけたいものは何かという目標自体に価値を感じて、ここを成長させたいと考える共通理解が大事ではないか。

○評価については、非同期研修の姿勢や態度をどう評価するかは大変難しいので、よく議論し、深めたほうがよい。ルーブリックの公開については、慎重であるべきだと思うが、学習者とも共有することもあるので、どこかの時点で公開をしてもいいのではないか。



6. 事業評価

第2回事業評価委員会（2025年3月10日開催）における外部有識者からのコメント、質問○、および回答●

【基盤整備・修了生のフォローアップについて】

○基盤整備については、とても大事な事業である。今回大きな二つの柱（修了生のネットワークJCNext、JCN研修ホームページ公開）が整備され、うまくいくとよい。特に、次年度、講師育成コースの募集ができなくなることと絡めて考えると、とても重要になるのではないか。リソースとして何が重要になるかを確認しておく必要がある。

○ホームページの存在は素晴らしい。次につながるものである。

○プログラムのコミュニティとインタラクティブティーチングでいうと、リユニオンという形で、コミュニティがあり、そういう形でつながることが、講師同士にとって有効である。MLを一つ作っていくだけでもつながる可能性はある。お互いに研鑽を積むことが、コミュニティの継続に重要なのかと思う。そういう形で続くといいのではないか。

○中堅の最後の成果発表会に、修了生の参加を促すことがよいのではないか。ネットワーク上にコミュニティはできるが、成果発表会に参加してコメントする時間がなければ、別にネット上で文字でのやり取りでもいい。世代の異なる人をつなぐようにするのがいいのではないか。次のネットワークメンバーに入ってもらうきっかけになる。そういう縦の形をつくると、中堅研修を過ぎてから、1年、2年経った後で、そこに参加することを追体験してもらうことで、もう一度頑張ろうかなと思ってもらう。そのようにして中断期を維持することもできるのではないか。



6. 成果と課題

6.1. 成果

- ・ 受講生が、機関を越えて繋がれる場を創出できた。
- ・ 受講生が、日本語教育の現状、将来に関する理解を深められた。
- ・ 受講生が、特定の機関、現場を越えた俯瞰的な視野を獲得できた。
- ・ 知識伝達を主軸としない、「自らの現場の課題を持ち寄る」という課題解決型の研修プログラムをデザインし、実施できた。
- ・ 中堅研修の運営を観察しながら自らの研修企画案を検討することを通じて、中堅日本語教師を対象とした研修が実施できる力量を持つ人材を育成した。
- ・ 修了生のネットワーク形成、および、成果発表のためのプラットフォームを構築した。

6.2. 課題

- ・ 中堅研修においては、「ループリックの精緻化および公開」「非同期型研修の評価方法の検討」「中堅研修の次の段階の研修プログラムの検討」があげられる。
- ・ 基盤整備においては、「JCN専用のウェブサイトおよび修了生ネットワークコミュニティの継続的な運用と交流の活性化」があげられる。
- ・ 全体の運営としては、「委員が変わっても安定した運営ができる体制作り」があげられる。